

台湾 マンゴのシーズンが始まる 主な輸出市場は日本と韓国

[中国時報 2024年4月17日](#)

台湾産の屏東マンゴは5月下旬に出荷のピークを迎える。4月16日に、枋寮村(郷)にある朋泉生産協同組合(生産合作社)の新しいコールドチェーン集荷・梱包施設で、香港に輸出するマンゴがコンテナに積み込まれた。

農業食品庁(農糧署)の蘇茂祥長官代行(代理署長)は、台湾の果実の競争力を高め、輸送ロスを最大20%削減する上でのコールドチェーン技術の役割を強調した。主な輸出市場は日本、韓国等である。

同協同組合の盧旺昇理事長は、愛文マンゴは同協同組合の主要農産物であり、約150ヘクタールの契約栽培面積があり年間生産量は平均約1,500トンであると述べた。

繁忙期の出荷が過度に集中する問題に対処するため、同協同組合は、農業食品庁のコールドチェーン物流計画ガイダンスに従い、コールドチェーン集荷・梱包施設、低温梱包作業エリア、サプライチェーン自動化システム、及び輸出用予冷施設を設置した。

コールドチェーン施設内の温度は20～25度に制御され、果実は最適な状態に保たれる。選別格付けと包装の後、マンゴは冷蔵倉庫で5～7度で保管され、保管と輸送の時間が延長される。それによって、国内産マンゴの輸出競争力が高まり、その結果として農家の収益機会が増える

徐富榮立法委員は、世界市場における台湾産果実の競争力を高めるために、農業省(農業部)がコールドチェーン施設の設立を促進することを提唱すると約束した。

蘇茂翔氏は、屏東愛文マンゴの今年の出荷のピークは5月中旬から下旬と予想されると指摘した。地元の実を振興するため、朋泉生産協同組合は最初の高品質マンゴを4月16日に市場に投入した

マンゴはコールドチェーン物流専用車両を利用して空港に輸送され、香港に空輸された。最初の出荷の重量は約1トンで、その後は毎週約5トン出荷され、屏東マンゴシーズンの正式な開始が宣言される。

蘇茂翔氏はさらに、香港の他、今年の出荷対象地域は日本、韓国、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、ニュージーランドであると述べた。マンゴのシーズンが始まろうとしており、毎週の航空貨物輸送で海外市場に供給を続け、5月になって出荷量が増えれば日本と韓国が主要な輸出先となる。

執筆者: 羅琦文

訳注: 翻訳に当たっては[FreshPlazaの英文記事\(2024年4月22日\)](#)も参考にしていますが、一部英文と異なる箇所があります。